

★マーキングのポイント (2)

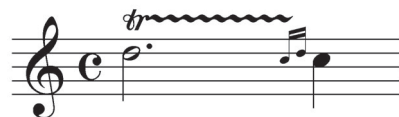
HCでは原則として4分音符を一拍としてテンポを管理します。ですから楽譜に無い音を拍と拍の間でいくら弾いても無視されます。これはヤマハのCVPシリーズの伴奏機能もよく似ていますが、CVPの場合正確に次の拍の青が来るまでステップが進みません。ですから、楽譜に無い音を楽譜にある音の間に挟みながら弾けばまるで、バリエーションや装飾音符を加えて弾いているように聞こえます。ですから、その機能をうまく利用すれば、楽譜通りでなくてもアンサンブル演奏が可能です。



例えば上の楽譜の場合1, 2, 3, 4拍目の音が順番に正確に弾かれない限り伴奏も進みません。これを次のように弾いてもどれも結果は上の楽譜を弾いたのと同じになることはわかりでしょう。



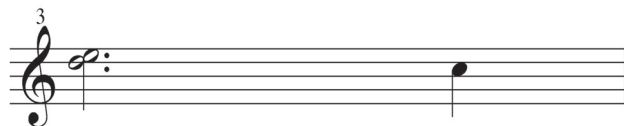
さて、問題はトリルです。トリルは音の数や弾き方やその他は大変個性的です。CVPの場合ですとオリジナルと同じ速度の同じ数の音でないとステップが進みませんから、順調に弾けて来たとしても、トリルの小節でどうしてもなくなることも請け合いです。器械のように正確なトリルでもない限りシンクロしません。



ん。



それに対してHCでは、トリルの問題を回避する方法が二つあります。一つは、トリルで繰り返される二つの音を実際に演奏される時間(拍の長さ)の音符に置き換えて次のように書き込んでおきます。



こうしておけばどちらの音がどんな順番でいくつ鳴ろうが3拍の間自由にトリルが弾けます。HCは音より拍を原則としてテンポを作る性質を利用した考え方ですが、この場合正確に拍を刻むもう一つのガイドが必要になります。ピアノの場合それが左手の伴奏に当たります。つまりこの方法を使うには左手に正確なテンポ情報を持つ伴奏がなければなりません。そのためにHCは追従モードがいくつかの片手又は両手と言う風に選べます。両手モードにしておけばこの方法が使えるというわけです。

もう一つの方法は、Ignore Soloist Range (ソロ演奏を無視する) というマークをトリルの区間に付けて置いてトリルの最後の音に Wait for Soloist Mark (ソロの演奏を待つ) を付ける方法です。

HCでは時には独奏者が演奏を完全に止めてしまっても伴奏はどんどん進みます。(そのためにある時間以上の演奏停止があれば自動的に伴奏が止まる設定もできる) ということは、演奏中に独奏者が楽譜をめくるために一時演奏を中断するような場合でも伴奏がどんどん進んでしまうことが起こるのです。このことが長所なのか短所なのかは意見が分かれるところでしょうが、実際のオケ伴でも譜めくりの間は待ってくれませんのでむしろ自然なのかも知れません。